



最初にお読みください

# AT-TQ2403 リリースノート

この度は、AT-TQ2403をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。  
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 3.1.0

## 2 本バージョンで追加された項目

ファームウェアバージョン **3.0.2** から **3.1.0** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

- 2.1 次のトラップが生成可能となりました。「SNMP」画面で設定できます。
- ColdStart：SNMP エージェントが起動したとき
  - Link：無線インターフェースがアップまたはダウンしたとき
  - Authentication：SNMP 認証が失敗したとき
  - Association：無線クライアントが接続（Association）または離脱したとき
  - Unknown AP：「不正 AP トラップ」画面の「既知のアクセスポイントのリスト」に登録されていないアクセスポイントを検出したとき
  - Filtered STA：接続を許可されていない無線クライアント（「MAC フィルタリング」画面で設定）を検出したとき
  - Radius Authentication（成功）：Radius 認証が成功したとき
  - Radius Authentication（失敗）：Radius 認証が失敗したとき

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

## 3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **3.0.2** から **3.1.0** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 ローミングが発生して無線クライアントが他のアクセスポイントに接続した後、再度ローミングが発生してその無線クライアントが元のアクセスポイントに再接続すると、その無線クライアントは最初にローミングしたアクセスポイントに接続している他の無線クライアントと、最長で5分間通信ができなくなっていました。これを修正しました。
- 3.2 VWN（バーチャル・ワイヤレス・ネットワーク）で WEP を使用することができませんでしたが、これを修正しました。
- 3.3 MAC アドレスフィルタリングの設定が VWN14 に適用されませんでしたが、これを修正しました。

- 3.4 既知のアクセスポイントのリストに存在しないアクセスポイントが検出されたとき、SNMPトラップが送信されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.5 クラスタ機能を使用している環境で「MACフィルタリング」画面の「無線クライアントのリスト」を変更してもその変更がクラスタ全体で同期しませんでした。これを修正しました。
- 3.6 「セキュリティ」画面の右側の説明の誤記「なし（プレーテキスト）」を「なし（プレーンテキスト）」に訂正しました。
- 3.7 NTPで時刻の同期を行うように設定すると、SNMPマネージャーでsysUp Timeを取得するときに誤った値が返されていましたが、これを修正しました。

## 4 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン **3.1.0** には、以下の制限事項があります。

### 4.1 本製品のご使用にあたって

- 本製品の起動中は、ネットワークの使用をお控えください。本製品がトラフィックを受信している場合、起動しないことがあります。
- 本製品の Web 設定には、必ず Microsoft Internet Explorer Version 6 または 7 をご使用ください。

### 4.2 NAP (Network Access Protection)

NAP (Network Access Protection) 環境で無線クライアントから本製品に接続しているとき、ネットワーク障害や本製品の電源断などによる無線クライアントの切断が起きた場合、障害の復旧後に再度同じログイン名で接続を試みると RADIUS サーバー (Windows Server 2008) の認証に失敗します。Windows Server 2008 にドメイン名を含めた UserID を設定するとこの現象は発生しません。

### 4.3 イーサネット設定

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

「イーサネット設定」画面の「無線 LAN からの本体宛アクセスを限定」を「有効」にしても、無線クライアントからの SNMP SET が可能です。「SNMP」画面の「SNMP リクエストの送信元を制限」を有効にし、不特定の無線クライアントからの SET を回避してください。


### 4.4 無線設定

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

「バースト時の速度制限」に「速度制限」で設定した値以下の値を設定できてしまいます。

---

## 4.5 VWN について

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「VWN」画面で各々のVWNを有効にし、いったん無効にしてから再度有効にすると、VWNの設定のうち、VLAN IDの設定だけが削除されます。SSIDやセキュリティなどの設定は残ります。
- 「VWN」画面の「セキュリティ」で「スタティックWEP」を選択した場合、認証方式の選択ができません。実際には「オープンシステム」認証が行われます。
- 有効なVWNの数が多くなると、MACフィルタリングの設定が、すぐに反映されないことがあります。VWNとMACフィルタリングを併用する場合は、MACフィルタリングの設定後に本製品を再起動してください。
- 「WPAエンタープライズ」と「ダイナミックVLAN」を併用している場合、無線クライアントにVLAN間のローミングが発生すると無線クライアントとの接続が切断されます。無線クライアントが再接続するために無線クライアントは、アクセスポイントに自動的に接続する設定にしてください。
- IEEE 802.1X、WPAエンタープライズのブロードキャストキーとセッションキーの更新が同一のタイミングで実行されます。

---


## 4.6 WDS

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

WDSの「暗号化」で「WPA (PSK)」を使用する場合、「セキュリティ」画面の「WPA パーソナル」または「WPA エンタープライズ」の「暗号スイート」のチェックボックスの設定（チェックの組み合わせ）は、WDSで接続するもの同士、完全に同一となるようにしてください。設定が異なっていると、WDS接続ができません。

---


## 4.7 クラスタ

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「クラスタ」](#) / [「アクセスポイント」](#)

クラスタを構成している場合、共有（同期）している設定の変更はクラスタメンバー（本製品）のうちの1台だけを使用してください。クラスタメンバーの間で設定の同期が行われている間に、設定に使ったクラスタメンバー以外の設定画面にアクセスすると、まれにアクセスしたクラスタメンバーが再起動することがあります。再起動が発生すると、再度クラスタメンバー間で設定内容の同期が始まります。この同期が完了するには、最大30分程度かかります。再起動が発生した場合は、30分以上経過してから本製品の設定画面にアクセスしてください。

---

## 4.8 RADIUS キー

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「セキュリティ」](#)


 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

「セキュリティ」画面や、「VWN」画面の各VWNのセキュリティの「IEEE802.1X」  
「WPAエンタープライズ」において、RADIUS キー（プライマリー）を空欄に設定すると

RADIUS サーバーへの問い合わせに「secret」を使用しますが、セカンダリーの RADIUS キーを空欄にすると「secret」が使用されません。

---

#### 4.9 イベント

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

DFS によるチャンネル変更の際に、誤ったチャンネル番号がはいったフレームを送信することがあります。また、「イベント」ページに誤ったチャンネル変更通知のログが表示されます。

---

#### 4.10 送信 / 受信

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

- 「送信 / 受信」画面で表示されるスループットの値が正しくありません。
- フレームサイズが 1544 バイトを超えるパケットは、正常にカウントすることができません。

---


#### 4.11 QoS

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)

cwMin（最小コンテンツウィンドウ値）と cwMax（最大コンテンツウィンドウ値）に同じ値を入力することができます。値を変更する場合、 $cwMin < cwMax$  となるように入力してください。

---


#### 4.12 SNMP

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

- 本製品を起動してから長時間（8 日間程度）経過すると、MIB-II の system.sysUpTime の値が正しくなくなることがあります。Web 設定画面では正しい値を表示します。
- ブロードキャストやマルチキャストのパケットの送受信で ifInNUCastPkts、ifOutNUcastPkts ではなく ifInUcastPkts、ifOutUcastPkts がカウントアップします。

---

#### 4.13 ファームウェアのアップグレード / ダウングレード

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- ルーター経由でファームウェア更新を行うと、動作状況を把握できなくなる場合がありますが、約 4 分後にはファームウェアが更新され正常に起動します。設定を続ける場合は、再度本製品の Web 設定画面に接続してください。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜けなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。

---

#### 4.14 設定のリストアとバックアップ

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

バックアップした設定ファイルをテキストエディターなどで編集した後、本製品にリストアしないでください。

---

#### 4.15 フルパス名

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)


 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が254文字までしか入力することができません。


---

#### 4.16 Web 設定画面


- 「無線」画面の「ステータス」ラジオボタンを「オン」→「オフ」→「オン」のように変えると、初期状態ではグレイアウトしていた「ブロードキャスト/マルチキャスト速度制限」の「速度制限」と「バースト時の速度制限」の入力フィールドが入力可能な状態に変わります。

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

- VWNのセキュリティーが「WPA エンタープライズ」の場合、「WPAバージョン」の「WPA」のみが有効となっているときに「WPA」のチェックを外すことによって自動的に「WPA2」が有効になると、「事前認証を有効にする」がグレイアウトして設定できなくなります。その場合は「WPA」「WPA2」の両方を有効にし、「事前認証を有効にする」の設定を変更してから「WPAバージョン」を設定してください。

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「VWN」画面の各VWNのセキュリティー「WPA エンタープライズ」で「事前認証を有効にする」を無効にすることができません。

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「イベント」画面の「ログのリレー」チェックボックスを有効にした後で無効にすると、入力可能だった「リレーホスト」と「リレーポート」フィールドがグレイアウトします。これらのフィールドに値を入力するときは、「ログのリレー」チェックボックスを有効にした状態で行ってください。


 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

## 5 ユーザーマニュアルの補足

---

ユーザーマニュアル (613-001037 Rev.C) の補足事項です。

### 5.1 PoE 機器接続時の注意

 **参照** [ユーザーマニュアル] / [設置と接続] / [電源の接続] / [IEEE 802.3af 準拠の機器による電源の供給]




注意

給電中のポートからケーブルを抜いた直後は電圧がかかっているため、ケーブルを抜き差しするなどして機器を接続しなおす場合は、2、3 秒間を空けてください。再接続の間隔が極端に短いと本製品または接続機器の故障の原因となる恐れがあります。

### 5.2 入力文字列について


本製品の Web 設定画面では、文字列の入力に ASCII 文字コードのみを使用できます。また、項目によっては入力できない文字が存在します。詳しくは、ユーザーマニュアルを参照してください。

### 5.3 イーサネット設定

 **参照** [ユーザーマニュアル] / [本製品の設定] / [詳細設定] / [イーサネット設定]


- 「イーサネット設定」画面でサブネットマスク 0.0.0.0 が登録可能です。
- 管理 VLAN ID を使用するよう設定しても、本製品の管理機能に対して送信されたタグなしのフレームを受信します。

### 5.4 無線

 **参照** [ユーザーマニュアル] / [本製品の設定] / [詳細設定] / [無線]

「無線」画面で「無線 1」または「無線 2」のどちらか一方の「ステータス」を変更すると、もう一方の無線も一時的にリンクダウンします。

### 5.5 VWN について

 **参照** [ユーザーマニュアル] / [本製品の設定] / [詳細設定] / [VWN]

- VWN 機能を有効にすると、クラスター機能が動作しないことがあります。VWN 機能とクラスター機能を併用する場合は、「イーサネット設定」画面の「内部ネットワークインターフェースの設定」の「VLAN ID」と「管理 VLAN ID」に同じ値を設定してください。
- 有効な VWN の数が増えると、本製品の CPU の負荷が高くなりスループットが低下します。有効にする VWN の数は、5 個までにするをお勧めします。


### 5.6 WDS

 **参照** [ユーザーマニュアル] / [本製品の設定] / [詳細設定] / [WDS]

WDS と VWN (バーチャル・ワイヤレス・ネットワーク) の併用はできません。

---

## 5.7 ユーザー管理

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「ユーザー管理」](#)

ASCII以外の文字コードを含むユーザー情報は編集できません。

---

## 5.8 セキュリティー

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「セキュリティ」](#)

本製品で内蔵 RADIUS サーバーを使用した認証を行う場合、SP1 または SP2 を適用していない Windows Vista 内蔵サブライアントを使用したクライアントからは接続することができません。

---


## 5.9 送信/受信

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信/受信」](#)

「送信」と「受信」における「総パケット数」「総バイト数」「総エラー数」のカウンターの周回が発生するとき、実際のカウント値より「1」少ない値となります。

---

## 5.10 SNMP

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

- Link UP/DOWN トラップは、無線接続された SNMP マネージャーには送信されません。
- 10BASE-T/100BASE-TX ポートの Link UP/DOWN トラップは生成されません。
- 内部 RADIUS サーバーを使うように設定されている場合、「Radius Authentication (失敗)」トラップ (atkWiAcRadiusAuthFailed) は送信されません。「Radius Authentication (成功)」は送信されます。

---


## 5.11 Ping

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「Ping」](#)

ローカルループバックアドレス (127.0.0.1) やマルチキャストアドレスなどの予約済みの IP アドレスに対して、PING を実行することができます。

---

## 5.12 NTP

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「オプション設定」](#) / [「NTP」](#)

本製品で表示される時間は、NTP サーバーより最大 20 秒遅れます。

---

## 5.13 設定のリストアとバックアップ

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

- バックアップした設定ファイルを本製品にリストアし、再度バックアップすると、異なるサイズの設定ファイルが生成されます。

- バックアップファイルに管理者ユーザーのパスワードが保存されないため、設定をリストアしてもパスワードはリストア前のパスワードのままになります。

---

## 5.14 ファームウェアのアップグレード / ダウングレード

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)


- 専用書き換えプログラムで、V.1.1.2 → V.3.1.0 のアップグレードを行うと、SNMP マネージャーで SET されていた項目（ロケーションなど）がリセットされます。
- V.2.1.x で作成された設定のバックアップファイルを、V.1.1.2 の本製品にリストアした後、TQ Firm Upgrader.exe を実行すると途中で初期化され、バージョンアップに失敗します。
- ファームウェアのアップグレードを実施する際は、アップグレード前に本製品を再起動してください。
- 現在インストールされているファームウェアと同一のファームウェアを使用してアップグレードを実行することができます。

---


## 5.15 Web 設定画面


- 「セキュリティ」画面や、「VWN」画面の各 VWN のセキュリティの「IEEE802.1x」「WPA エンタープライズ」の「RADIUS IP」に本製品に設定されている IP アドレスの設定が可能です。

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「セキュリティ」](#)


 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「MAC フィルタリング」画面の「無線クライアントのリスト」、「不正 AP トラップ」画面の「既知のアクセスポイントのリスト」に本製品が持つ MAC アドレスが登録可能です。これらのリストに本製品の MAC アドレスを登録しないでください。

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「MAC フィルタリング」](#)

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「不正 AP トラップ」](#)

- 「不正 AP トラップ」画面の「既知のアクセスポイントのリスト」にブロードキャストアドレスやマルチキャストアドレスが設定可能です。

 [「ユーザーマニュアル」](#) / [「本製品の設定」](#) / [「詳細設定」](#) / [「不正 AP トラップ」](#)




## 6 ファームウェアのアップグレード

**重要**：アップグレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。  
また、アップグレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。アップグレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

### 6.1 V.2.1.x 以降→V.3.1.0 アップグレードの補足

V.2.1.x 以降から V.3.1.0 へのアップグレードは、本製品の Web 設定画面で行います。

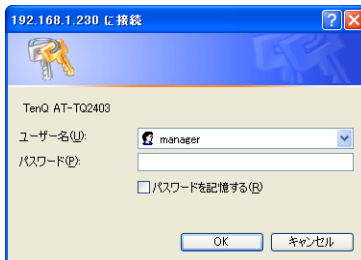
 **参照** 「ユーザーマニュアル」 / 「本製品の設定」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」

ただし、V.2.1.0 から V.3.1.0 へのアップグレードの場合は、アップグレードを行う前に、以下の 2 点を実行してください。

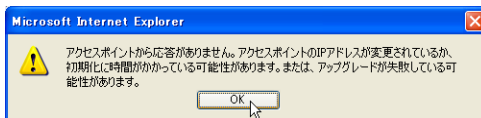
1. 「ユーザー管理」画面において、ユーザー名に記号「< > ' &」を使用している場合、これらが含まれないユーザー名に変更してください。
2. 管理者ユーザー (manager) のパスワードとして、9 文字以上の文字列を設定している場合は、8 文字以内のパスワードに変更してください。

管理者ユーザーのパスワードとして、9 文字以上の文字列を設定したまま、アップグレードを行ってしまった場合、以下の手順で対応してください。

1. 「ユーザーマニュアル」 / 「本製品の設定」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」の手順 7 の最後の段階で、パスワードを要求するダイアログボックスが表示されます。



そのまま、4～5 分待ち、下記のエラーメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックし、メッセージボックスを閉じてください。



2. 手順 1 のパスワードを要求するダイアログボックスの「キャンセル」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じてください。閉じない場合は、閉じるまで「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

3. Web ブラウザーを終了してください。
4. Web ブラウザーを起動し、本製品の設定画面にログインします。管理者ユーザー (manager) のパスワードとして、アップグレード前に設定されていたパスワードの 8 文字目までを入力してください。

## 6.2 V.1.1.2 → V.3.1.0 アップグレード

**重要：**専用書き換えプログラムを実行するコンピューターは、本製品と同一のネットワークに接続してください。ルーターを経由すると、専用書き換えプログラムが正常に動作しないことがあります。

本製品のファームウェアの V.1.1.2 からのアップグレードは下記の専用書き換えプログラムで行います。

TQ Firm Upgrader\_V112\_to\_V310.zip

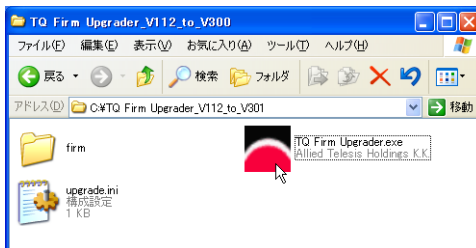
プログラムは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

アップグレードの手順は、以下のとおりです。

V.1.1.2 よりも前のバージョンからの V.3.1.0 へのアップグレードは、本製品の Web 設定画面で V.1.1.2 にバージョンアップした後、以下の手順を実行してください。

1. Windows XP がインストールされたコンピューターを用意してください。専用書き換えプログラムは、Windows XP のみで実行可能です。
2. 「ユーザー管理」画面において、ユーザー名に記号「<>'&」を使用している場合、アップグレードを実行する前に、これらが含まれないユーザー名に変更してください。
3. 安全のために設定のバックアップを取ってください。
4. 専用書き換えプログラムを解凍し、「TQ Firm Upgrader.exe」をダブルクリックしてください。<sup>(1)</sup>

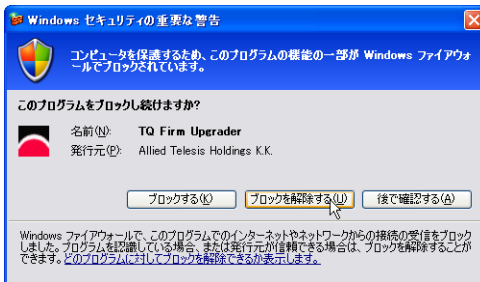


(1) 手順 4～8 の図版のフォルダー名やログが旧バージョン「V.3.0.1」となっております。「V.3.1.0」に読み替えてくださいますようお願いいたします。

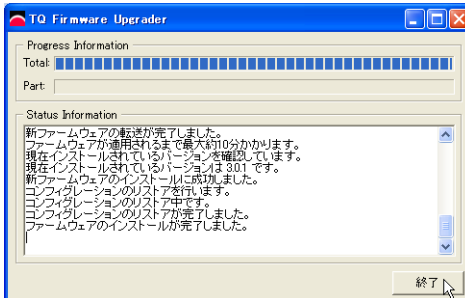
5. 「IP Address」 にアップグレード対象となる AT-TQ2403 の IP アドレスを入力し、「Password」 に管理者 manager のパスワードを入力して、「OK」 をクリックしてください。



6. 下記が表示される場合は、「ブロックを解除する」をクリックしてください。

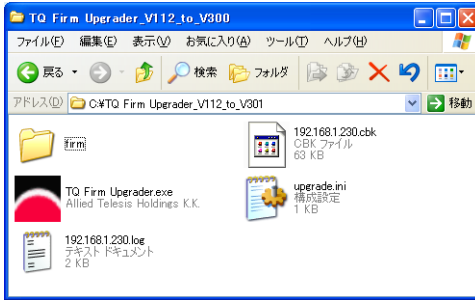


7. ファームウェアが適用されるまで、最大約 20 分かかります。アップグレードが完了したら、「終了」をクリックしてください。




**重要**：ファームウェアのアップグレードの実行中は、本製品の電源をオフにしたり、再起動しないでください。アップグレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

8. ログファイルが保存されます。  
ログファイルは「IP アドレス.log」という名前を持ちます。



9. V.1.1.2のときの設定はV.3.1.0に引き継がれます。  
また、アップグレード前に管理者ユーザー（manager）のパスワードが9文字以上だった場合は、本製品の設定画面にログインする際に、アップグレード前に設定されていたパスワードの8文字目までを入力してください。  
SNMPを使用していた場合は、ロケーションなどを再設定してください。

 **参照** 「リリースノート」 / 「5 ユーザーマニュアルの補足」 / 「5.14」

## 7 ユーザーマニュアルについて

最新のユーザーマニュアル（613-001037 Rev.C）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のユーザーマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのユーザーマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>